

天竜川流域の水神信仰と治水

飯島町文化財調査委員 伊藤 修 氏

1、はじめに

今年は梅雨が無いと言われていたのに7月、平成最大豪雨災害ともいわれる西日本豪雨災害が起きてしまいました。またその後も各地で災害が起きてしまいましたが、これからは一か所に集中して起こる災害が日本中のどこで起きてても不思議ではないといわれています。

今、私達の身近な天竜川では堤防が完備されて災害は関係ないと思いがちですが、伊那谷で三六災害のような災害がいつ起こるともわかりません。そんなことを肝に銘じておく必要があると思います。

先日資料館で展示を見ました。江戸時代から明治にかけての天竜川流域の人達の水害対策の苦勞の様子が素晴らしい形で展示されていました。

今日は治水の話と合わせて信仰面でどんな様子であったかということをお話しさせていただきます。

2、時代・世代で変わる天竜川観

① 天竜川の名前の変遷

今は当たり前前天竜川と呼んでいます。昔はなんて呼んでいたのでしょうか。

一般にいわれていることとして。資料には次のような名前があります。

【奈良時代】 鹿玉河（あらたまがわ）・荒玉河

【平安時代】 広瀬河

【鎌倉時代】 天中川（あまのなかがわ）・天ちゅう川

【室町時代】 天龍川・天流川

【江戸時代】 天竜川・天流川

奈良時代や平安時代の呼び方は天竜川の一番下流域、今の遠江のあたりで呼ばれていた名前、この辺ではそういった名前では呼ばれていなかったと思います。どのように呼ばれていたかは非常に興味のあるところです。もしかすると「おおかわ」とでも呼ばれていたのかなあと。室町・江戸時代になって天竜川という呼び方が定着しました。

川の名前が移り変わるように川の役割も時代とともに変わってきています。

② 天竜川が持つ機能の多様性

〈道より天竜川が物流で重視された時代〉

昔の道は狭いし、馬や人の運べる量は限られてしまいます。それに対して川は筏や船を使えば大量の物が迅速に運べるということで、天竜川は重要な川でした。

川の近くには市場や城があり、そこへ荷物が運ばれます。伊那谷からは東海地方へ樽木のような木材や米が運ばれたと思いますし、逆に東海地方からは陶磁器や日用品が運ばれてき

たことがわかっています。

〈経済活動に大きく貢献する時代〉

江戸時代になりますと天竜川流域の荒れた土地で新田開発が進みます。新しい土地を開発することで米の飛躍的な増産が図られます。また、漁業の面でも今より沢山魚がいたので、信州では不足がちな動物性蛋白質が摂れ、飛躍的に食生活が向上したかと思えます。

〈多様性を発揮した時代〉

用水路が整備されたり水力発電所が出来、天竜川流域に市街地が出来て工場が進出してきます。また観光資源ということでは天竜峡などの観光名所も生まれます。

また信仰行事の舞台としてお盆の時には灯籠流しが行われます。更に親子の遊びの舞台として私も皆さんもそうかと思いますが、夏になると天竜川で魚を釣ったり泳いだりしたかと思えます。

〈身近な存在から遠い存在へ移りつつある時代〉

河川の整備で、近年は身近な存在から遠い存在へと変わってきたのかなあと思えます。河川の整備によって水害の恐怖は改善されますが、その反面殺風景な水辺になったということは感じています。

ダムや堤防が出来ることによって生態系の変化も起こってきています。川遊びの制約ということで、今子供達が天竜川で川遊びをするということも無くなりましたね。そういうことで私達から川は遠くなった気がします。

③ 先人の想いを伝える天竜川地域の地名

天竜川流域には多くの地名があります。そこから土地の特徴や土地柄をある程度知ることが出来ます。

◎土地柄・地勢を表す地名

流域に多い地名として、砂田、流田、新田、小沼、古瀬、大溝、なぎ、出砂原、黒牛、久保田などの地名があります。こうした地名から私達は、その土地の履歴を知ることができ、地名は大切なものだと考えています。

◎信仰を表す地名

信仰を表す地名もたくさんあります。

天白（伯）、尺宮司、経塚、富士塚、弁天、若宮、水神、石神などがあります。高森町にも下市田に天白（伯）とか尺宮司という地名が残っています。このような場所では水害を逃れることを願って色々お祭りを行っています。

経塚などは水害のないことを祈ってお経を埋めたとか、それとは反対に日照りで雨乞いの祭りをした富士塚といった地名や場所も残っています。

◎橋に付けられた名前

橋の名前も信仰と関係のある興味深いものです。高森町と豊丘村に架かる明神橋、飯田市の弁天橋、水神橋は伊那市、飯田市、天龍村にあり、阿南町には南宮橋があります。

3、 水害から生活を守るため水の神に願う・・・流域に建てられた石碑

私はこのテーマについて以前から少しずつ調べていることがありまして、今までに天竜川流域で300の水の神様を現地で確認しています。いろいろな水の神様を見ていきますと、諏訪湖から天龍村までの間に約400位の水の神様があるそうです。現地へ行ってみますと、すでにそこに無かったり、また一か所へ纏められてしまったりもしています。その中でいくつかを紹介します。

水 神

流域に一般的にみられる神です。水に安定的に恵まれないという強い願いの石碑です。江戸時代の物も少しはありますが、ほとんどは明治以降のもので、年代も刻まれていないものが多くみられます。個人でも比較的手軽に建てられたと思います。

水速女命・水波能売神・弥都波能売大神・罔象女神

水神様といえば一般的に「ミズハノメノカミ」を指します。農業用水の神様です。神話の世界で「イザナミノミコト」の尿から生まれたとされ、古事記や日本書紀にも載っている、治水というよりどちらかと言えば利水の性格の強い神です。

九頭龍大権現・大龍王・龍神

九頭龍大権現は戸隠神社の奥社に祭られている神様です。龍神の本命は治水です。戸隠神社院坊の御師が各村々にやってきて、そこで札を配ったり、祈祷をしたりしていますが、御師が来た時は九頭龍様の掛軸をかけて仲間が集まって夜通しお経を唱えたという例もあります。高森町では山吹竜の口、下平に大型の九頭龍大権現の石碑が三か所見られます。

金毘羅大権現

これは有名な海上守護の神様として信仰を集めました。江戸時代後期になると金毘羅講が出来て、神社境内やムラの祭祀場などに石碑が建てられました。大型で単独で建てられたり、或いは秋葉山大権現と併記されて建てられています。秋葉山は御存知のように火伏の神様です。火の神と水の神を祭ることから村内の安寧を願ったものと思われそうですが、同時に天竜川流域では、通船の安全や水難防止として船主や船頭の信仰を集めていたようです。

瑜伽山（ゆがさん）大権現

瑜伽山というのは備前の国、今の岡山県ですが、そこにある山岳信仰と仏教が融合した神仏融合の神様です。厄除けの神として、瀬戸内海対岸の金毘羅大権現と共に両参りの大権現として知られています。この流域では豊丘村、喬木村、辰野町などにありますが特に豊丘村の小野神社には大型の石碑があります。

水天宮

水天宮は流域全体に見られますが、高森町では大川除の惣兵衛堤防に嘉永3年に石碑が建てられました。水神としての性格の外、市田港、時又港、満島港など港の近くに建てられ、舟運の安全を願ったものと考えられています。飯田市役所近くの愛宕稲荷社、今宮球場のある今

宮郊戸八幡宮の境内には大型の石碑があり、飯田の商人の人達の援助で建てられたかと考えられます。

天白宮

これも流域に多いです。祝殿などや地名にも多いですが、それと同時に石碑もしばしば見られます。土着の神様として信仰を集めまして、下市田には「三天伯」「三シャゴジ」があります。「三シャゴジ」は諏訪大社に関係した災いを鎮める神様といわれています。

諏訪大明神

天竜川の源の諏訪湖に関係した神様ということで、金毘羅大権現・戸隠神社・岡象女神と併記されて見られます。

奥山半僧坊大権現

浜松市に方広寺というお寺がありますが、そこの鎮守になります。明治になって秋葉山で3回ほど火災がありましたが、3回とも半僧坊の所で火が止まったということから、火伏に靈験があるということで信仰を集めました。その他に水難防除とか海上の安全、厄難消滅の御利益があるとして広まりました。伊那谷では明治時代の一時期に流行して碑が建てられています。

籠大神（このたいしん）

天竜川流域では飯田市鼎に一基だけ建てられています。籠大神はどこに有るか御存知ですか？私はこの間そこに旅行で行ってきました。「天橋立」へ行かれた方はいませんか？「天橋立」のロープウェイ入り口にある神社です。「伊勢へ参らば元伊勢参れ」と書いてあります。伊勢の元の神社です。どうしてこれが鼎にあるのかよくわかりません。

その他の石碑

中国最古の夏王朝の皇帝の「禹王」を治水の神様として祭ったものが中川村の理兵衛堤防の所にあります。現在全国に107ヶ所確認されていてまして天竜川の惣兵衛堤防にも関係すると思います。というのは飯田藩主の堀親長は下市田に「大川除」を築きますが、その時に禹王の功績を例に挙げて築堤の経過の中で禹除堤とか禹除石とか述べているからです。

「下市田邑堤防之御銘」

第7代飯田城主の堀親長が寛政5年59歳の時に文章を作り築堤の業績を後世に伝えようとした。しかしこの碑は実現には至らず古文書で残されています。古文書は難しいので訳文を読んでみますと、

(訳文)

旧堤（鍋弦堤といって大川除けの上流部にあるところ）から少し退いたところに、禹余石を本として河の流れにしたがって斜めに堤防を築いた。河の神を祭祀して禹余堤と名づけ、碑を道ばたからいくぶん山下のほうに建て、事を記した。

この文章から禹王に関係したなんらかの碑が建ったようですがはっきりしたことは分かっていません。また、理兵堤防では築堤に功績のあった松村理兵衛さんが神格化されて、天流功業義公明神という碑も建てられています。

4、 現在まで脈々と続けられる水害鎮護の祭り（上伊那地方2例）

天竜川流域には水に関わる宗教行事が沢山あります。下伊那地方にもあると思いますが、今回は伊那市の三峰川の下流で長く続いている「青島の千社参り」と「さんよりこより」についてみていきます。

① 青島の千社参り

これは7月下旬の日曜日に行なわれます。江戸時代から続く行事で、伊那市無形民俗文化財に指定されています。三峰川の氾濫に苦しめられた青島の人々が、水害の被害から逃れるため千枚のお札を作り、総出で伊那市内の神社や小祠、石碑などに参拝して貼るという行事です。

② さんよりこより

8月7日に行われます。

室町時代三峰川の大洪水で高遠の藤沢村片倉の天伯宮が流され、富県村桜井の平岩のよどみに漂着するがまた流され、対岸の川手裏河原に漂着し村民が助け上げそれを祀ったといわれています。

この行事は大きくふたつに分かれていて「さんよりこより」では洪水を起こす疫病神を子供が七夕飾りで叩いて追い払うという行事です。「神輿渡御（みこしとぎょ）」では川手の天伯社から神輿を担ぎ三峰川を渡って桜井の天伯宮へ参り、そこでも同じ行事を行って戻ってくるという行事です。これも伊那市の無形文化財に指定されています。

ースライドを見ながらー

ア、信仰の石碑と橋に付けられた名前

飯田の弁天橋には下久堅側に弁天様が祭られています。対岸の松尾には弁天巖島神社が造られここに水神様が3基あります。松川町の宮ヶ瀬橋にも弁天様があります。昭和40年頃ここで1～2年、船下りがあったそうですがご存知ですか？その当時植えられた桜があります。水神様は2基祭られています。伊那市の水神橋には「水波能賣神」が祭られています。由来が書かれた説明文もあります。

次に天龍村の水神橋です。水神孤島がありますが、そこにあった石碑が現在は伊那小沢駅の南側に移されています。中川村の前沢川のふたつの堤防の中間に尺宮司神社があります。駒ヶ根市には平成14年に造られたかっぱ神社があります。水の事故や洪水の被害がないように祈願して建てられました。

イ、水の神を祭る石碑

いくつか石碑を説明しましたが飯島町日曾利にはポツンと建てられた水神様があります。また松川町の鶴部には北の鶴部井とって用水路を引いてきた傍らに個人の方が水神様を造って祭ってあります。

次は飯田市の土曾と天竜川の合流点の堤防にある水神様です。これは立派な大きな物です。

ウ、神話に出てくる水の神 弥都波能売大神

中川村の理兵堤防に弥都波能売大神があります。伴野堤防には水波賣之命（みづはのめのみこと）があります。

工、荒れ狂う水を治めた九頭龍大権現

高森町下平の松木渡場（カインズホーム南西）に九頭龍権現が祭られています。山吹藩座光寺様が揮毫された立派な石碑です。その近くには水神名を冠した『下平九頭龍会館』があります。会館のすぐ東側の竹藪の中にはやはり座光寺様揮毫の九頭龍大権現がありますが少し場所が分かりにくいです。

その上流、山吹竜の口の橋の少し下側に九頭龍大権現と水神様が祭られています。安政3年、江戸時代後期の山吹藩の座光寺様による石碑です。対岸の河野にも九頭龍大権現があり一か所に石碑が集められています。

松川町にも座光寺様揮毫の石碑がありますが、九頭龍と天照宮が併記された天保13年建立の碑です。九頭龍様はどんなイメージかということで、その姿を彫ったのが飯田市上郷の御嶽神社と中川村の理兵衛堤防にあります。

オ、その他の龍神

その他の龍神として辰野町の三輪神社に八大龍王、喬木村小川に龍神があります。小川の川は結構荒れた川で沢山大石がありまして、そこに龍神が祭られています。

カ、水天宮

舟運の安全祈願なのか、天龍村満島の満島神社には色々な石碑があります。真ん中には秋葉山大権現と金毘羅大権現があり、その右側に水天宮が2基祭られています。時又の渡しには廻船問屋や旅館、料理屋、外人専門の旅館、劇場まで建てられていたようです。ここからの最も多い船便は満島へ行く舟だったそうです。イギリス人のウェストンが明治26年に2回時又で舟下りを楽しんだということを記念して碑が建てられています。また、飯田市愛宕稲荷社や今宮球場のある郷戸郊戸八幡宮に水天宮があります。こうした石碑は飯田の商人の援助があったからかと考えられます。

時又の対岸には今田の渡しがあります。時又港にも水天宮と水神宮があります。

キ、水難除けの金毘羅大権現 火伏の秋葉山大権現

併記した石碑が天竜川流域には各所に見られます。中でも有名なものは牛牧の十王堂にある秋葉山と金毘羅様が併記されたものです。高さ4メートル40センチ、これだけ大きな石碑は伊那谷にはありません。文政6年1823年に牛牧村の人達により造られました。石碑の横面に牛牧村と入っています。高森町には併記の石碑は21基、個々に分けて建てられたのは8基あります。山吹の観音堂の横にある金毘羅大神の石碑も立派な物です。

ク、明治の一時期流行した災い消滅の奥山半僧坊

喬木村の諏訪大明神の所に半僧坊の石碑が2基あります。伊那市西春近下牧には金毘羅様と秋葉様の碑があって、その横に半僧坊があります。半僧坊とは何かといいますと半分お坊さ

んで、浜松の方広寺にはその絵がありますが、飯島町七久保にはその姿を彫った石碑があります。

ケ、比較的少ない瑜伽山（ゆがさん）大権現、籠大神（このたいしん）

豊丘村小野神社に瑜伽山大権現の石碑があります。「ゆがさん」を知っている人は読めますが、大変読みにくい字で彫ってあります。これだけ大きな碑を何故ここへ建てたかはわかりません。喬木村伊久間には金毘羅大権現、瑜伽山大権現併記の両参りの碑があります。

飯田市鼎に籠大神があります。籠神社は、京都宮津にある神社です。大正12年の水害の復旧工事の記念碑です。前沢川でも大きな災害のあった年ですので、この年は伊那谷は大きな被害を受けたと思われます。なぜここに籠大神が建てられたのか。どなたかこの頃、天の橋立へ行ってきたのでしょうか。

コ、土着の神 天伯大神（てんぱくおおかみ）ほか

天伯様も所々に見られます。伊那市青島三峰川の堤防の所に水神様と戸隠大神・諏訪大神・天伯様が祭られています。三峰川下流に祈願者の名前が何名か刻まれた天伯様があります。

高森町には下市田に大庭天伯様があります。氏子7人でお祭りをされています。天伯様はどんな神様でしょうか。遠山の霜月祭りは天伯様の面が登場します。喬木村伊久間には天伯様と一緒に若宮様が併記されている石碑があります。若宮様も霜月祭りに面で登場します。後は「田の神」「水の神」「山の神」と列記した石碑もあります。

中川村の理兵衛堤防には中国の水の神様である『禹王』を祭った「大聖禹王廟碑（たいせいいうおうびょうひ）」があります。また松村理兵衛さんが神格化され神様として祭られた「天流功業義公明神」碑もあります。

サ、三峰川流域に見る水害鎮護の祭り

天竜川と三峰川が合流する地域で現在もふたつのお祭りが行われています。

I、千社参り

伊那市美篤青島地区 今年7月22日に行われました。当日の朝、9組の組長が集まります。神前にお供え物と千社参りのお札を進めます。区長が祝詞を奏上し、その後会館でお神酒を飲んでからどこへ札を配るかを定めるくじ引きをしますが、その前にくじ引きの順番を決めるくじ引きを行います。二度にわたる厳密なくじ引きで、その組がどこを回るか決定します。千枚が9組に割り当てられます。組内で順路を相談して、祈願をしながら神社、小祠や石碑に貼っていきます。百枚強のお札を張り終えたら組内でマレットゴルフをしたり、焼き肉をしたりするそうです。

II、さんよりこより（さあーよってこいよおーの意）

これは青島のすぐ上流の上川手・下川手と対岸の桜井で行われます。今年8月7日に行なわれました。幾日か前から準備を行います。上川手、下川手両地区合同で神社に幟を立てます。とても大きな幟なので大変時間がかかりますが、古式にのっとり立てます。祭りの当日は保育園、小学校の児童が沢山集まってきます。神事として神様を神輿に移します。子供達が神輿

の下を3回廻って厄を払います。その後広場で一人が太鼓を持ち一人が太鼓を打ちます。この二人が洪水を起こす悪い神となります。この二人を、願いを書いた青竹を持った子供達がぐるりと取り囲み、子供達が「さんよりこより」と唱えながら三周します。

廻り終えたら青竹で二人の悪い神をめった打ちにします。これを3回繰り返しますので中に入った疫病神役は大変だそうです。後には願い事を書いた紙がそこら中に散らかっています。これが終わると、いよいよ神輿が対岸の桜井の天白宮に向かって出発します。暑い中、三峰川を目指して進みます。川に着くと河原に降り対岸へ渡ります。いかなる出水の時でも渡るということで大変です。五色の旗も続きます。桜井の天白宮でも子供達が同じように神輿の下を3回くぐります。一行は御神酒で接待を受け、役員は神事を行います。それが終わりますと、先ほど叩かれた疫病神がまた同じように子供達に叩かれます。それを終えると、また川手へと戻ります。

5、 近代的な堤防が造られる前の治水対策

① 個人でできる自衛対策（水を防ぐ工夫）

個人で出来ることとしては屋敷の上流側に木を植えたということ、また、中川村田島新井というところでは、「おしもの水除（舟形屋敷）」といって石を舟形に積んで、先を尖らせて水を除けるといった工夫がされていました。堤防の石積の上に、さらに小屋を建てて屋敷内に水が入るのを防ぐといった工夫もされています。

② 戦国武将や藩、個人が取り組んだ治山

治水には治山が必要だということで各藩が取り組みましたが、特に有名なのが浜松市の大地主、金原明善です。全財産を天竜川の治水工事に費やし、自らも山に入って驚く数の植林をしたといえます。

③ 水害防備林

これは武田信玄の時代から万力林で有名ですが、この伊那谷でも中田切川とか大田切川といった川でも水防と同時に*聖牛（ひじりうし）の材料として松の木が植えられています。

*多くの丸太で三角錐を横に倒したような構造物を作り、いくつかの蛇籠を乗せた物、形状が双角の牛に似ていることから命名された。

竹藪は根が丈夫なので山崩れを防止する役目をしました。

④ 直接的対策としての堤防

江戸時代の伝統的工法としては

石積・・・自然石や割石を積み上げた堤防が各所で造られました。

蛇籠・・・竹で編んだ円筒状の物ですが、近年は鉄線です。中に石を詰めてそれを並べました。

牛類・・・木を組み合わせてあります。この牛と蛇籠を組み合わせたものは、江戸時代の絵図の中で至る所で見られます。

枿類・・・今でも同じ方法が取られていますが、柱木で枿を作ってその中に石を敷き詰めた物です。現在、形は変わっていますが造られています。

以上のものを組み合わせて流域の人達は水害を防いだことがわかっています。

6、江戸時代天竜川流域を代表する大規模堤防

【惣兵衛堤防と理兵衛堤防】

ふたつの堤防の比較をしてみます。

支配地についてですが、惣兵衛堤防は飯田藩、理兵衛堤防は幕府の支配でした。惣兵衛堤防は川奉行がいて、実際の工事の主体は、石工の中村惣兵衛が中心となって行いました。

これに対して理兵衛堤防は松村理兵衛3代（名主）が中心となって行っています。築堤の開始時期は面白いことにどちらも寛延3年(1750)に始まっています。ところが完成年になりますと、惣兵衛堤防のほうが宝暦2年で足かけ約3年、それに対して理兵衛堤防の方は60年かかっています。どういうことなのか。堤防の特徴としてはどちらも大規模な石積みの堤防といえます。もう一つの特徴としては、どちらも激流を対岸に刎ねるということですので、理兵衛堤防では対岸の葛島の人達が困り抗議をしたという古文書もあります。

堤防の裏側を見ますと惣兵衛堤防は土の土手ですが、理兵衛堤防は裏側もしっかりした石積みになっています。堤防の形式は違いますが、大体同じような規模です。

工事の費用は惣兵衛堤防は1,858両、それに対して個人でおこなった理兵衛堤防は32,000両、人足も惣兵衛堤防は持高で人足を繰り出したということですが、理兵衛堤防は延約576,000人となっています。

理兵衛堤防は何年もかけているうちに、壊れたり、修復したりを繰り返したため費用が高んだと考えられることと、理兵衛堤防は個人とはいっても幕府から2分の1位の補助がありましたので、もしかすると補助をもらうために水増しをした、といことも考えられるかと思います。

工事の方法については、どちらも近くから大きな石を、竹を敷いて運んだり、木の舟に載せて運んだようです。

どちらの堤防もただ水を防ぐだけではなく堤防の頭の方に水門を造って水を堤防の内側に引き入れ、それによって惣兵衛堤防では250石の増加、理兵衛堤防では約1,000石の新しい田んぼが出来ました。治水信仰をみますと、惣兵衛堤防には水天宮が祭られ、理兵衛堤防には禹王や九頭龍王、神格化された天流功業義公明神が祭られました。

—スライドを見ながら—

ア、江戸時代の絵図に見る水害と水除（堤防）

昔は絵図面に牛や石積みが描かれた物が作られたり、川欠けとって堤防が壊れたときに絵図面を作って復旧工事をしました。

6～7年前の惣兵衛堤防跡には木枠が残りその中にしっかり石を入れた跡が表れていたのですが、今は残っていないと思います。

イ、惣兵衛堤防の対岸 伴野堤防

対岸の伴野堤防は現在広場になっていまして、水神様や堤防に尽力した人達の顕彰碑とか記念碑があります。その横に水防倉庫があります。今でも天竜川流域の各所には、このような堤防倉庫が残っています。中を覗きますと鉄の蛇籠、牛を組む時の材、竹の蛇籠も

入っています。

ウ、近代的な堤防施設が造られる前

今では中々見られませんが、中川村の葛島には鉄製の蛇籠の堤防跡が見られます。流域には竹の蛇籠を作るための竹林が沢山ありました。また、各地に水防の為の松林の立派な所も沢山ありましたが、新しい堤防を造る時に皆切られてしまいました。

エ、県史跡 石川除、警鐘の櫓

高森町と飯田市の境、南大島川の下流に整備された石積みの堤防があります。水門もきちんと残っています。大水が出た時の物見、水防倉庫があり、水神様他の石碑も祭られています。

飯田松川と天竜川の合流地点には警鐘の櫓があります。大きな川と支流の合流部には警鐘が造られました。

オ、今も治水施設が残る中川村片桐地区（田島新井地籍）

田島では神社の裏に川除を造って前沢川の水を刎ね返し、また堤防も本堤防と控えの堤防とふたつ造ってます。そして松村さん宅では敷地に舟形の石積みを造って水が出ても両方に分ける工夫がされています。

この集落には控えの堤防のさらに上に小屋を造り、屋敷に水が入らないように建てられる工夫がありましたが、最近は新しく家を建てた時に小屋が取り払われたりして世代が変わると考え方も変わってきます。

堤防には一の刎、二の刎とがあって石積になっています。

カ、江戸時代の代表的石積み堤防 大川除（惣兵衛堤防）と理兵衛堤防

大川除（惣兵衛堤防）

今から200年位前に測量して描かれた絵図面には基準となった天伯の森や上の亀甲石、下の亀甲石が示されています。また大島川には松林も描かれています。

市田駅の西側には「未満水」の時に流れてきた大石があり、上にお地藏様が二体あります。飯田の野底川、あるいは中川にも夜泣き石があります。「惣兵衛通り」という通りまであり、堤防の大石を運んだ溝が残ると地元の人が話してくれました。

嘉永3年に建てられた水天宮がありましたが三六災害で埋まってしまったので、耕作者組合の人達が昭和58年に新しい水天宮を造りました。ところが公園を造る段階で嘉永の石碑が出てきたということで、現在は嘉永と昭和のふたつの水天宮が祭られています。下の亀甲石がありますが何故か下という字がひっくり返って(上の字)います。

理兵衛堤防 中川村片桐

前沢川が天竜川と合流する所で水がプール状態になってしまい田島の古瀬、新井地籍が大変な被害を受けました。そこへ理兵衛堤防が出来たことで「田島田んぼ」という一千石といわれる美田が出来ました。

松村家は、中世の時代に田島の外記島に住み着いた郷土で新井に移り住んで、江戸時代前期には名主を務め代々理兵衛を名乗りました。そして10代、12代、13代の理兵衛が堤防築造に尽力しました。そこで後に「理兵衛三代」と呼ばれています。昭和になって新しい堤防が出来、理兵衛堤防は一部しか残らなかったため昭和59年に一度調査を行いました。

平成19年の堤防調査

平成18年に大水が出て19年に昭和の堤防が壊れてしまいました。その下に今まで知られていなかった理兵衛堤防が表れたので調査をしました。惣兵衛堤防の場合は堤防の内側のすぐ横を用水路が通りますが、理兵衛堤防は小段という石積みの中段に用水路が造られ木樋、石樋が見つかりました。一部木樋が取り除かれ石の部分が出ていますが、幅120～130センチ、長さ70～80メートルの立派な用水路が出てきました。釘は全く使わず、木を組み合わせ、竹で接いであります。平成の堤防工事と理兵衛堤防の調査が同時に行われ堤防は完成。理兵衛堤防は復元されて、そのまま河原の中に残して置くことになりました。これには特別な配慮があったと思います。

平成22年の堤防調査

その下流に平成の新しい堤防を造ることとなり工事をしていたら、そこでもまた石積みの堤防が出てきたので、工事事務所では困ってしまいました。本来ですと河川の中は埋蔵文化財の対象外なので工事しても問題はないのですが、結局壊ることができないということで調査して、また埋め戻しました。「造っては流され、流されては造り」といった大変な手間をかけた跡を見ることができました。

7、 おわりに

治水で大切なことは何かというと、まず水の本性を理解することだと思います。「知水・馴水・敬水」ということが言われます。私たちは、このことをしっかり肝に銘じておくことが大事だと思います。

【知水】 雨は降るもので大雨もある。当然大水も起きる。水は上から下へ自然に流れる。

【馴水】 川に馴れて一定の距離を保つことが必要。水は大切なので、つかず離れず水に馴れる。

【敬水】 水に感謝する。私達の生活の中で水は無くてはならないものであることを認識し、水に対して色々な形で感謝することが大事。

以上

